

第2号様式（第3関係）

第1回豊山町中学校施設整備基本構想会議議事録

1 開催日時 令和3年6月28日（月） 午後1時30分～

2 開催場所 豊山町役場 2階 会議室1

3 出席者

名古屋市立大学芸術工学研究科 教授 鈴木 賢 一

中部大学人間力創成総合教育センター 教授 武者 一 弘

愛知教育大学教育学部 教授 風岡 治

愛知学泉大学家政学部 教授 前田 治

愛知工業大学工学部 教授 鈴木 森 晶

社会福祉法人豊山町社会福祉協議会 会長 池山 和 徳

豊山中学校 校長 篠田 弘 男

豊山町議会 議長 水野 晃

豊山中学校PTA 顧問 小川 晃 永

事務局

教育長 北川 昌 宏

事務局長 安藤 憲 司

教育参事 小川 貴

事務局学校教育課長 井戸 茂 治

事務局学校教育課学校教育係長 菊地 智 行

事務局学校教育課学校教育係主任 安藤 幸 雄

阪急コンストラクション・マネジメント株式会社

大阪本社 CM部 CMグループ長 赤松 直 樹

名古屋事務所 営業部部長兼名古屋事務所副所長 杉田 昌 彦

名古屋事務所 CM部 チーフマネジャー 山口 友 香 理

傍聴者

山本 亮 介

作野 桂 子

#### 4 議題

- (1) これまでの経緯と現状
- (2) 今後の協議事項と日程

#### 5 議事内容

##### (1) あいさつ

町長：現在のコロナワクチン接種状況について、65歳以上の1回目接種は9割完了し、2回目接種は5割程度完了している。小中学校職員の1回目接種は全員完了している。本中学校は、新築から60年が経過し、随時修繕を行ってはいるものの、調査報告等を踏まえると、今後の長寿命化を行うことについては難しいと思われる。中学校の新築を目指したい。

今後、ソフト（学校運営）とハード（建物）をどのように作っていくか、地域の財産としてあるべき姿を幅広い視点からこの会議で協議していただきたい。

公約で移転改築とは言ったが、フラットな立ち位置で町の財政を考慮し、どのような手法がベストか検討していただきたい。長丁場になるが、委員の方には、様々な積極的な意見をお願いする。

##### (2) 各委員及び事務局自己紹介

##### (3) 整備基本構想会議開催趣旨説明

事務局：学校施設の一般的な状況として、児童生徒の急増期に合わせ整備してきた経緯から、現在一斉に経年劣化が進み、同時に少子化に伴い学校の統廃合や改築に迫られている状況にある。学校施設は、単に児童生徒の学習の場にとどまらず、地域住民の生活に深く関わりがある施設でもあるため、学校の老朽化対策は、極めて重要な課題である。

中長期にわたるトータルコストの縮減と財政負担の平準化を図りながら、防災や生涯学習などの新たに求められる機能や役割にも配慮しつつ、整備を進めていくことが求められている。本町が保有する公共建築物の中でも、その占める施設数・延床面積が最も多く、また経年劣化が進んでいる。

学校整備についての新たな課題として、愛知県が進める「基幹的広域防災拠点」の整備事業やコロナ感染症を主な原因とする収税への影響があり、これらを踏まえて本事業を進めていく必要がある。

これまで数年にわたり検討してきた学校整備に関する本町の基本的な考え方として、次の3点が挙げられる。

- ・一般的な学区再編や統廃合を検討すべき条件には至らないこと。

- ・新たな学校用地を短期間に町内に確保することは困難であること。
- ・現にある町有地の活用又は現在地における対応を基本とすること。

この3点を前提に、目指すべき中学校の在り方について、下記の5つの観点から協議していただきたい。

- ・学習環境の質的向上
- ・快適な学習生活空間・環境への確保（工事期間中の地域住民への配慮も含む。）
- ・地域コミュニティの拠点形成
- ・安全・安心な施設環境の確保
- ・財政負担を軽減する効率的な施設及び運営並びに整備手法

今回の事業実施にあたり、コストラクションマネジメントの手法を採用し、町サイドから、中立的な立場で建設工事の検討やコスト管理などを行う。

#### （4）会長及び副会長の選任

会長を鈴木賢一委員に、副会長を鈴木森晶委員に選出した。

#### （5）会議の公開、議事録の取り扱い

この会議は、原則として公開する。ただし、運営に著しい支障があると会長が判断した場合は非公開とすることができる。

議事録の取り扱いは、豊山町の指針により、発信者を匿名とした要点筆記とし、その確認を会長とその他委員お一人の署名により行う。

#### （6）議題

##### 【（1）これまでの経緯と現状】

事務局：平成29年度豊山町学校施設整備基本方針検討支援業務報告書の説明

豊山町概要説明（周辺市町、面積、人口等）

町内に小学校は3校あり、豊山小学区が青、新栄小学区が橙、志水小学区が紫で表記されている。中学校は、豊山小の東隣にある。

他に、給食センターが令和2年9月開設し、4校に配食している。

県道448号線沿いに社会教育センターがある。昭和63年建設（体育館、アリーナ、図書館等）。

スカイプール（平成3年、ジャンボすべり台がある）、グラウンド（平成3年）がある。これらは、町の生涯スポーツの中核拠点を担い、町民体育大会も開催される。

各校の通学距離は、遠いところからの距離で、豊山小は1.2km、豊山中2.6km、新栄小1.7km、志水小1.7kmである。コンパクトで比較的短い。

事務局：資料3 豊山町学校施設改築・長寿命化計画について 概要版の説明  
昭和30年代から50年代にかけて整備されており、老朽化が深刻である。  
財政の縮小や平準化を図りながら、学校施設の機能性能を確保しなければならない。

本計画は、学校施設に関する個別計画に位置付けられる。

事務局：資料3 2. 学校施設の現状についての説明

町内の公共施設の老朽化等の状況は、公共施設の約45%が学校を占めており、その大半が老朽化している。

旧耐震基準の校舎が7割（耐震補強は実施済）で、築30年以上の校舎がほぼ8割を占めており、また、更新・改修時期がほぼ同時期となる。

児童及び生徒数は増加傾向であり、学区再編や統廃合は考えていない。

学校の利用状況について、豊山小は、全室数及び余裕教室が最大である。

新栄小は、余裕教室とトイレが最小となっている。志水小は、規模は適正と思われる。豊山中は、余裕教室が少ない。

建物の健全性評価は、耐震性の問題はないが、豊山小、豊山中については、躯体劣化が進行している。新栄小、志水小は、比較的軽度な劣化である。

直近の学校施設関連経費は、平均で1年あたり約1.4億であり、更新するために予測されるコストは、直近の学校施設関連経費の水準を上回る。

学校施設の目指すべき姿として、

1. 教育環境の質的向上
2. 快適な学習生活空間・環境への配慮
3. 地域コミュニティの拠点形成
4. 安全・安心な施設環境の確保
5. 財政負担を慧眼する効率的な施設

を考えており、その内容については資料による。

学校施設整備の方針として、豊山小は改築、新栄小は大規模改修、志水小は長寿命化改修、豊山中は校舎の改築及び体育館については長寿命化改修を考えている。

事務局：参考資料1 防災拠点説明会資料について、この計画を注視しながら、本計画を進めていく。

委員：今ある学校を維持していくことは重要であり、コミュニティを大事にしていきたい。また、豊山中は早急な対応が必要だが、体育館については検討が必要である。工事中も教育活動は続いているので、注意が必要である。

事務局：体育館の在り方については、これから検討していきたい。

委員：資料3 目指すべき姿、生涯学習については、地域コミュニティ形成のコンセプトが重要であり、地域で誇りに思えるものになりたい。地域の特色と

して、現在県営名古屋空港があるが、どのように考えているか。また、公民館との連携や役割のすみ分けの検討が必要である。

会長：教育だけでなく、地域との繋がりや小学校と中学校でのコミュニティの違いを明確にする必要がある。

委員：町内で唯一の中学校であるため独立性がある。豊山町が小さくてキラリと輝く町なので、中学校も小さくてキラリと輝く学校としたい。

福祉の立場を3つの視点から申し上げたい。まず1番目は地域福祉の大切さであり、そのためには町民の皆さんがいつでも気軽にアクセスできる施設のあるロケーションが望ましい。

2番目に生徒の多様性が身に付く施設が必要だと思う。学校運営、授業運営、新しい教え方などを今後検討していきたい。

3番目は、快適な空間づくりが大切である。四角の建物でなく、ラウンドや丸みのある優しい施設としたい。広い意味でのバリアフリーについて、もう1歩踏み込んで議論したい。

委員：住民代表として、町有地の活用とするか現地にするかについて、町有地とした場合の整備計画について詳細を伺いたい。現在地との比較が必要となるので、住民に理解されるような比較をしてほしい。

事務局：学習環境の場として相応しい場所を考えると、短期間で新しい土地を求めることは難しく現実的ではない。必要面積として約1.5haの広さが必要と考えている。町有地又は現在地での検討が必要だと考えている。

委員：町有地の場所について、現在ある町有地では、高さ制限などで難しいのではないか。また、グラウンドを使う場合は通路もあるので、もう少し検討してほしい。できれば案を先行して提示してほしい。

事務局：次回以降の会議にて提示したい。

委員：防災拠点やコミュニティは重要であり、住民と学校の区分と安全性に対する検討が必要である。学校の一部をコミュニティとして使う場合、学校の一部が縮小して支障が出ないように考慮が必要である。

学校移転又は改築した場合、学校教育への影響がないように配慮しなければならない。

会長：セキュリティなどについては、今後の検討事項とする。

委員：学級編成については、現在、通常学級が15、特別学級が3の18学級で、生徒総数が542名となっており、今後はやや減少すると考えている。

現在の校舎の造りは体育館も含め、当時としては斬新でしっかりしている。また、西側武道場の上に、屋外テニス場及びプールがあり、恵まれた施設となっている。今でも誇れる施設である。体育館等を外の方から利用した

いとの声が多数ある。校訓『創造・責任・健康』が具現化した施設であってほしい。

会長：スポーツ系が充実しているように思える。

委員：50年後を見込み、増改築に対応できるかを考えながら進めていく必要がある。

地域コミュニティについては、防災・福祉・生涯学習施設を取り入れた時に、施設一体型とするのか、又は必要な機能を選り分けていくのかを検討していきたい。

コストについては、国などの補助金も有効である。また、福祉、防災、生涯学習施設についての機能を持たせることで、どれだけ国から補助金ができるのか検討が必要である。運営については、PFIの手法も検討を重ねるべきである。

会長：PFIの良い面と悪い面の両方の検討が必要である。コミュニティについては、学校内の中だけで考えるのではなく、地域のつながりを考えなければならない。

委員：中学校だけでなく、小学校も含めた4校のロードマップが必要と感じる。

会長：人数は急激には減っていないが、今後の変遷も含めて検討していきたい。

## 【（2）今後の協議事項と日程】

事務局：今回の構想会議は第1回目とし、下記を予定している。

第2回目

日程：8月上旬

議題：前提条件の整理、検討事項に対する課題の整理、中学校の在り方

第3回目

日程：9月上旬

議題：事業化方針の提示、子どもたちを取り巻く環境

第4回目

日程：10月上旬

議題：中間報告、住民説明会に向けての内容整理

第5回目

日程：12月上旬

議題：中間報告、住民説明会からのフィードバックの整理

第6回目

日程：1月上旬

議題：パブリックコメントからのフィードバックと事業化の方向性の確認

第7回目

日程：2月下旬

議題：最終報告についての確認

最終まとめは3月に行う。

委員：タイトなスケジュールとなるが、授業スタイル（大口中学校の教科センター方式など）の議論をこの中で行える時間はあるのか。

事務局：CMからの事例等を踏まえ、事務局より提示したい。

会長：教科センター型やインクルーシブ教育、一貫校など、ハードだけでなくソフト面の検討についても、この会議で議論を行うか、または別で行うのかは重要である。

事務局：できれば将来にわたって応用のきく柔軟な施設としたい。

会長：10月には中間報告をまとめなければいけない。限られた時間であるので、町側で資料の整備をお願いしたい。

## 6 その他

次回の構想会議日程

8月4日（水）午後3時～ 豊山町役場 会議室1

正式な文書は、後日メールで送付する。

上記のとおり第1回豊山町中学校施設整備基本構想会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

令和3年7月20日

会 長 鈴 木 賢 一

署名人 池 山 和 徳